



販売店さんこんにちは

量販店にはない希少な商材を扱うなど 地域屈指を誇る約5000点の在庫量と、 きめ細かなサービスで差別化を図る!

山下英利さん ● (株)山下金物店 (北海道北見市)

北海道オホーツク総合振興局管内で唯一、10万人以上の人口を有する町、北見市。平成18年(2006)3月に周辺3町と合併した同市は、全国の市の中でも4番目の面積を誇り、市内には、全国一の生産量を誇るタマネギの広大な畑が広がっています。雄大な自然に包まれた同市の中心街で、100年以上に渡り商売を続ける(株)山下金物店。今も昔も変わらず「地域の頼れる専門店」として支持を集め続けています。

北見市に移り住んだ創業者が 木挽鋸の販売から商売を開始

北見駅前を走る国道39号線に面した好立地に建つ(株)山下金物店。その創業は明治45年(1912)と、今からおよそ100年前にまで遡ります。滋賀県にある鋸の商社に勤めていた創業者が、釧路営業所に転勤となり北海道へ。そして、北見市に移り住み、独立されて木挽鋸の販売を始めたのがきっかけです。その後、兵庫県三木市や新潟県三条市の問屋と取引を始め、大正2年頃から金物屋として徐々に商売を広げていきました。

4代目の山下英利社長は、大学卒業後、札幌市内の金物商社で5年間勤めた後、実家に戻り入社。平成18年(2006)、社長に就任しました。主な取引先は、地元の建設会社や大工、左官職人さんなど。約70坪ある店舗の脇には、40坪の倉庫(高さ6mのラックを設置)が隣接しており、お客様が倉庫を直接訪れた時にも、その様子をモニターで確認してすぐに接客対応ができるようになっています。なお、同社の社員は役員を含めて全部で10名。3名が配達を担当し、北見市内をはじめ、網走などの近隣市町村の現場に配達を行っています。

圧倒的な在庫量と心配りで 量販店との差別化を追求

同社の在庫はおよそ5000点。北見市近郊では屈指のアイテム数を誇ります。「ホームセンターにも売れ筋の商品は置いてありますが、プロの職人さんがたまにしか使わないよう



▲新入社員を迎えて活気ある職場のみなさん

な商材は置いていないことが多いです。だから当社では、あえて売れる頻度が低い商材でも、常時在庫するようにしています」と山下社長。とりわけ北見市近郊は、資材メーカーの営業所がない場合が多いため、現場で使う建築金物や工具の在庫が常にあり、すぐに購入できる「お客様の安心感」を大切にしているそうです。

お客様のために何ができるのかを考え続ける山下社長は、日常の配達業務にも気を配ります。「同じ商品であっても、現場への持っていく方、置き方で違いが出てきます。10本の商品をバラバラに置くのか、それとも束ねて置くのか。地面に直接置くのか、置かないのか。現場を整理してキレイに置くことも、お金のかからないサービスの一つです。今はネットで手軽に商品が購入できる時代です。だからこそ、こうした細やかな配慮や商品知識で差別化を図るように心掛けています」。

今年から新入社員2名が入社 組織が若返り、活気ある職場に

山下社長が入社した当時は、昔ながらの金物店でしたが、一昨年に店舗を一新。商品の陳列方法を見直し、一般のお客様が来店されても分かりやすい売場に改装したほか、事務所には新たにパソコンを導入しました。また、最近では、社長自らオリジナルのチラシを作成。『金物屋NEWS』と題して最新商品の情報などを掲載し、請求書に同封して営業のきっかけづくりなどに役立っています。

「今は廃業するお客様が多い時代です。そ

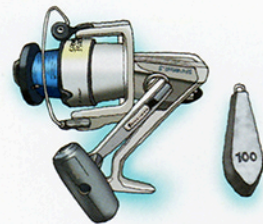
れだけに、まずは既存のお客様とのパイプを太くしていくことが第一だと考えています。こうした試みを通じて、お客様とのつながりをより密にしていければいいと思いますね」。

長年務めたベテランが定年退職を迎え、社員の世代交代が進む同社では、今年から高卒の新入社員2名が入社。組織が一気に若返りました。「新卒採用は初めての試みですが、立派な社員に育成していきたいですね。金物の世界は取り扱う商材も多く、ひと通りの仕事を覚えるまでに最低5年はかかります。まずは新人らしい明るさや元気で、職場を盛り上げていってほしいと思います」。

やる気に満ちた新入社員が仲間入りし、活気にあふれる同社の職場。新たな人材を獲得したことで、今後も地域に根付いた商売を末永く続けていかれることでしょう。

ちょっといい
“モノ”
語り

釣りの達成感を
味わえる
手回りのリール



お客様やメーカーさんとの親睦を深めるため、夏になると船釣りに出掛けています。お客様が大切なのはもちろんですが、仕入先であるメーカーさんにもご協力いただかなければ、私たちの商売はうまく回っていきません。だからこそ、皆さんが一堂に会してワイワイ盛り上がる機会を設けようと、3年前から私が企画して始めました。

7月頃に船を貸し切り、社員を含めて総勢10名ほどでオホーツク海へ。毎回30~40cmほどのキレイをたくさん釣って帰ってきます。ちなみに私のこだわりは、手回りのリールです。周りの皆さんは電動リールを使っていますが、私はこの方が釣った達成感が味わえて好きですね。ただ、40~50mの海底から引き揚げるため、後半はいつものように筋肉痛で苦しめられています(笑)。



▲北見駅から徒歩約5分の便利な立地にあります